

熊本商工会議所・第43回 経営動向調査

平成19年3月期 結果報告書

業況DI マイナス27.7 前期(18年12月期)からやや悪化

～建設業(土木)を除く業種で悪化～

調査結果のポイント

全業種の業況DI値は▲27.7となり、前回(平成18年12月期)調査の▲18.6と比較して、やや悪化(マイナス9.1ポイント)した。

前回調査から業況が改善したのは建設業(土木)▲22.2(プラス11.1ポイント)の1業種のみであった。一方、悪化を示したのは、建設業(職別・設備)が▲15.4(マイナス23.7ポイント)、卸売業が▲50.0(マイナス20.6ポイント)、製造業が▲27.7(マイナス17.4ポイント)、飲食業が▲66.7(マイナス12.9ポイント)、サービス業が▲16.3(マイナス8.1ポイント)、そして小売業が▲29.4(マイナス1.1ポイント)の6業種であった。

なかでも飲食業と卸売業は、前回(平成18年12月期)調査から業況DI値が更に悪化し低水準で推移しており、業況の厳しさが感じられる結果であった。

また、来期(平成19年4～6月)の業況見通しとしては、全体として「やや改善」の見通しであり、特に卸売業、飲食業において期待感が大きかった。

- ・ 調査対象期間 平成19年1月～3月(平成18年度 第4四半期)
- ・ 調査期間 平成19年3月12日(月)～3月16日(金)
- ・ 調査対象数 熊本市内 小規模企業 288事業所
- ・ 回答数 194事業所(回答率67.4%)

※ 小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業をいう。

《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	29	78.4
建設業(土木)	20	9	45.0
建設業(職別・設備)	34	26	76.5
卸売業	34	16	47.1
小売業	72	52	72.2
飲食業	21	13	61.9
サービス業	70	49	70.0
合計	288	194	67.4

※ DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(18年12月期)調査と比較した概況

【全業種】

製造原価・仕入(材料等)単価がやや改善したが、販売(受注)・客単価はやや悪化となった。売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も、悪化となった。

〈製造業〉

製造原価が改善したものの、販売(受注)単価はやや悪化となった。売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も、悪化となった。

〈建設業(土木)〉

仕入単価が、大きく改善したものの、受注単価は悪化となった。売上高が僅かに改善し、採算(営業利益)は大きく改善となった。

〈建設業(職別・設備)〉

仕入単価がやや改善し、受注単価はほぼ横ばいとなった。しかし売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

〈卸売業〉

仕入単価がほぼ横ばいであったが、売上単価は改善であった。しかし売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

〈小売業〉

仕入単価が僅かに改善したものの、客単価は悪化となった。売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

〈飲食業〉

仕入単価が大きく改善し、客単価も改善となった。売上高が大きく悪化したものの、採算(営業利益)は横ばいとなった。

〈サービス業〉

仕入単価(材料等)がやや悪化し、客単価も悪化となった。売上高が悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。

業種別の業況一覧

上段＝対前期比
下段＝対前年同期比

業種	今回調査 (19年3月期)	前回調査 (18年12月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	▲ 27.7	▲ 18.6	▲ 9.1
	▲ 24.2	▲ 25.5	1.3
製造業	▲ 27.7	▲ 10.3	▲ 17.4
	▲ 24.2	▲ 22.2	▲ 2.0
建設業 (土木)	▲ 22.2	▲ 33.3	11.1
	▲ 22.2	▲ 25.0	2.8
建設業 (職別・設備)	▲ 15.4	8.3	▲ 23.7
	▲ 20.8	4.3	▲ 25.1
卸売業	▲ 50.0	▲ 29.4	▲ 20.6
	▲ 25.0	▲ 41.2	16.2
小売業	▲ 29.4	▲ 28.3	▲ 1.1
	▲ 23.5	▲ 36.7	13.2
飲食業	▲ 66.7	▲ 53.8	▲ 12.9
	▲ 53.8	▲ 58.3	4.5
サービス業	▲ 16.3	▲ 8.2	▲ 8.1
	▲ 14.3	▲ 14.3	0.0

来期(19年4～6月期)の業況見通し

全業種における来期(19年4～6月期)の業況見通しのD I値は▲3.2となり、18年12月期の前回調査の業況D I値▲12.8と比較して9.6ポイント改善し、全体としてやや明るい業況見通しとなった。

業種別で、前回調査と比較して来期の見通しD I値が改善する業況見通しの業種は、飲食業、卸売業、小売業、建設業(職別・設備)の4業種であった。一方、業況見通しが悪化の業種は、建設業(土木)、製造業、サービス業の3業種であった。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業 種	今回調査 (19年3月)	前回調査 (18年12月)	今回調査との比較
全 業 種	▲ 3. 2	▲12. 8	9. 6
製 造 業	▲28. 6	▲16. 7	▲11. 9
建 設 業 (土 木)	▲42. 9	▲16. 7	▲26. 2
建 設 業 (職別・設備)	18. 2	8. 3	9. 9
卸 売 業	±0. 0	▲40. 0	40. 0
小 売 業	▲ 2. 3	▲18. 5	16. 2
飲 食 業	±0. 0	▲54. 5	54. 5
サービス業	2. 6	7. 5	▲4. 9